

令和7年度 教科研修会Ⅱに向けた授業の構想

保健体育科

1 保健体育科の研究テーマ

運動についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方

2 研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿

- ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている姿 (1, 2 学年、球技領域)
- ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている姿 (3 学年、球技領域)
- ・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている姿 (3 学年、球技領域)

3 単元名・学年 「クラスの願いが達成されるネット型のゲームをつくろう」・3年

4 単元の概要 (全 12 時間扱い 本時は第 9 時)

単元の学習問題

クラスの願いが達成されるネット型のゲームをつくり、みんなで楽しむためにはどうすればよいのだろうか。

単元展開

時間	◆学習活動 ・教師の支援
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ◆今までのネット型の学習を振り返り、ネット型の特性や楽しさをクラス全体で共有し、どのようなネット型をつくっていきたいかクラスの願いを全体で共有する。 ・クラスの願いを達成することに加え、ネット型の学習の系統を伝え、2 年次に学習したダブルセット・バレーボールより、「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」「意思決定」(以下「3つの視点」と示す)を高度にしていく必要があることを確認し単元の学習問題を設定する。
第 2 時 ～ 第 8 時	<ul style="list-style-type: none"> ◆ダブルセット・バレーボールのルールを基に、クラスの願いに近づくように、ルールを修正したり検討したりすることを繰り返す。 ◆ルールの修正に伴って必要になる技能を「3つの視点」で整理しながら、必要な技能を身に付ける練習をする。 (ルール変更とその変更に伴って必要になる技能の例) ○サーブなし→サーブあり 狙った場所にサーブを打つ「ボール操作」やサーブを拾うためのレシーブの「ボール操作」や「ボールを持たないときの動き」が必要になる。 ○4回触球で返球する→2回～4回触球で返球する ボール状況や味方、相手の位置を瞬時に把握し、何回目の触球で返球すればよいかについて素早い「意思決定」が必要になる。
第 9 時 (本時) ～ 第 11 時	<ul style="list-style-type: none"> ◆「3つの視点」を基に、チームの課題を解決する。 ◆修正したルールにおいて、「3つの視点」を基に、チームの課題を明確にし、提示された練習方法から課題解決のための練習をチームで選択し、取り組む。
第 12 時	<ul style="list-style-type: none"> ◆単元の学習について、クラスの願いが達成されるようにルールを修正したり検討したりした過程や技能を身に付けるための課題解決の過程から振り返る。

保健体育科学習指導案

令和7年7月16日(水) 5校時 体育館

授業学級 3年E組(40名)

授業者 渡部 顕治

- 1 単元名 「クラスの願いが達成されるネット型のゲームをつくろう」(球技・ネット型)
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
 クラスの願いが達成されるネット型をつくりみんなで楽しむためにはどうすればよいのか考える場面で、「3つの視点」を基にチームの課題を明確にして、課題解決に効果的な練習方法を選択して練習することを通して、自己や仲間の動きの改善についてのポイントを見付けることができる。 【E(2)】
- 3 単元の学習問題：クラスの願いが達成されるネット型をつくりみんなで楽しむためにはどうすればよいのだろうか。
- 4 本時の位置 (全12時間中 第9時)
 前時：修正したルール(4段攻撃→3段攻撃)が、クラスの願いに近付いているか検討した。
 次時：「3つの視点」を基に、チームの課題を明確にし、その課題を解決するために練習する。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 単元の学習問題を確認し学習課題を据える。	単元の学習問題：クラスの願いが達成されるネット型のゲームをつくりみんなで楽しむためにはどうすればよいのだろうか。 ア 4段攻撃を3段攻撃にするルールに変更したため、クラスの願いである「みんなでつなぐ楽しさ」がアップしたと感じる。しかし、レシーブの「ボール操作」の正確さやセッターの「ボールを持たないときの動き」を早くすることが必要になったのでレシーブとセッターのつながりを練習したい。 イ タスク練習でやっているレシーブ・セット練習が課題解決に効果的だと思う。	・修正してきたルールを楽しむために必要な技能について確認する。 ・アのように「3つの視点」を基に課題を捉えている生徒の考えを全体で共有し、どのように課題を解決するか問う。 ・イのような反応を受けて学習課題を据える。	8分
展開	2 チームの課題を解決するための練習をする。	ウ 私たちのチームは、ネットの近くのセッターに正確にボールをつなぐレシーブの「ボール操作」が課題だね。まず、レシーブ練習に特化した練習をしよう。 エ サーブに対してもレシーブができるように強いボールでレシーブ練習をしよう。 オ レシーブの際は、腰を落として準備の姿勢をとると、早く反応することができる。 カ レシーブを正確にするためにボールの落下点を予測して早く動こう。 キ アタックボールにも対応できるように前後左右に振ったボールでレシーブ練習しよう。	・「3つの視点」を基に、チームの課題を共有し、これまで取り組んできた練習方法から選択して練習するように促す。 ・具体的な課題を見付けられないチームには、「3つの視点」で整理されている技能一覧表を見ながら、考えるように促す。 ・チームごと、練習するコートを示し、安全に配慮して練習するように促す。 ・チーム内でアドバイスし合っている姿を認める声掛けをする。	15分
展開	3 練習試合をする。	ク 練習で身に付けたレシーブの準備姿勢をつくって、ボールの落下点を予測して、素早く移動しよう。 ケ 相手のサーブに対して、8割くらいの確率でレシーブがネットの近くにつながられて、3段攻撃がスムーズにできるようになってきた。	・審判や得点係など、試合を支える役割を確認してから試合を行うように指示する。 ・1試合目と2試合目の間に、チームの課題について、1試合目の成果や課題を振り返る場を設ける。	17分
終末	4 本時の学習を振り返る。	コ レシーブの「ボール操作」と「ボールを持たないときの動き」を意識してレシーブ練習をしたことで、レシーブをネットの近くのセッターにフワッとつながれるようになった。もっと早くボールの落下点を予測できれば、セッターにより正確なボールをつなぐことができそうだ。 サ アタックの「ボール操作」がうまくいかないことが多いため、次の課題にしたい。	・本時の学習課題について振り返り、成果と課題を全体で共有する場を設ける。 自己や仲間の動きの改善についてのポイントを見付けている。(ロイロノート・観察) ・サのような反応を受けて、次時の練習に見通しをもつ。	10分